IAUD vol.6 Newsletter

2013.10 No. 1



IAUD Newsletter vol.6 第 11 号 (2013 年 10 月号) 目次

1.	「48 時間デザインマラソン in こうべ」開催報告・・・・・・・・	• 1
2.	余暇の UDPJ Facebook アカウント「CM 字幕応援団」活用開始・・	• 6
3.	DDL ウィークに IAUD 活動紹介パネル展示・・・・・・・・・	• 6
4.	IAUD 設立 10 周年記念イヴェント開催のお知らせ・・・・・・・	• 7
5.	第4回 UD 検定初級 講習会&検定試験実施のお知らせ・・・・・・	• 7
6.	IAUD 11 月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 8

神戸で暮らしと絆の UD を提案

特集: WS 委員会「48 時間デザインマラソン in こうべ」開催報告



ユーザー参加型ワークショップ「48時間デザインマラソン in こうべ」(主催: IAUD)が神戸芸術工科大学のご協力と神戸市のご後援を得て、9月17日(火)から9月20日(金)の4日間、神戸芸術工科大学キャンパスプロダクトデザイン学科棟(神戸市西区)で開催されました。今号のNewsletterは運営したワークショップ委員会に4日間の様子を報告していただきます。

人間らしい生活を実感できる創造都市を提案

「48 時間デザインマラソン」は、ユーザー参加型の特別ワークショップで UD の普及啓発と次世代の UD を担うリーダーやデザイナーの人材育成、さらには新たなデザイン開発手法を探求する学びの場とする等、様々な目的や性格を持っている。

2004年から IAUD が継続的に取り組んできたが、第1回48時間デザインマラソンは2006年10月の「第2回国際UD会議2006 in 京都」で開催され、今回が第8回目となる。

今回のテーマは「暮らしと絆~未来を繋ぐ、街を繋ぐ、そこに住まう人の心を繋ぐ」。 「住み続けたくなるまち、訪れたくなるまち、そして継続的に発展するまち」を目指して、人間らしい生活を実感できる創造都市の為のUDを提案するというものである。 ユーザー、企業デザイナー、学生ヴォランティアなどで構成された5チーム48名が、 48時間という短くも濃密な時間を共有して最終デザイン提案の作成作業に集中した。

1日目9月17日(火) メンバー集合 9:30~10:30

ユーザーとチームリーダーが会場の神戸芸術工科大学プロダクトデザイン学科棟に集合。ワークショップ全体の流れやチーム運営に関わる注意事項、ユーザーとリーダーの果たすべき役割と期待などについて、総合監修をお願いした金沢美術工芸大学の荒井利春名誉教授からお話しいただいた。A~E の各チームではメンバーの自己紹介が始まり、中には早くもにこやかな笑い声が起こるチームもあった。



開会式 11:00~12:00



参加者全員による開会式が視聴覚教室で開催された。 冒頭では事務局から48時間マラソンの内容の説明が行われた。また、子どもの成長とデザインの関係を研究しているデザイン集団・神戸意匠操練所の二宮様と山内様から他県からの参加者がイメージしやすい様に神戸の街や観光スポットについて、ビデオを使って説明していただいた。

続いて総合監修の荒井名誉教授から、ユーザー参加型ワークショップの狙いと特色、メンバーそれぞれが

果たすべき役割と期待すること、さらには成功の「肝」などについて説明があった。次に、ワークショップ委員長の藤木武史氏から今回のテーマである「暮らしと絆」に関して、テーマ設定の狙いと期待について説明があった。

その後、各チームは昼食後にスタートするフィールド調査に向け、調査の場所や方法、 移動手段などについて入念な検討を行っていた。会場は大きな作業用教室になっており、 チーム作業の拠点となるテーブルが 5 つの島になって設置されていた。今回は全チーム がこの教室に一緒に入り、チーム間の仕切りを設置しながら空間を共有する方式をとった。

13:00~18:00 フィールド調査

ワークショップがスタート。中心街 の三宮から少し西に位置している神 戸芸術工科大学キャンパスから、各チ ームは思い思いのエリアへと向かっ た。

今回のワークショップが開催された神戸市は1995年、阪神・淡路大震災によって戦後に例を見ない程の大きな打撃を受けたが、住民や多くの支





援者の尽力によりめざましい復興をとげ、新しい神戸を再建し続けている街である。ま

た、2008年10月16日にはユネスコ創造都市ネットワークデザイン都市に認定されている。 よって、神戸市は震災からの再建を進めるだけでなく、「住み続けたくなるまち、訪れ たくなるまち、そして継続的に発展するまち」を目指して「テザイン都市・神戸」を積 極的に推進しているエリアと言える。

一方、2011年3月11日に発生した東日本大震災はM9.0と気象庁観測史上最大の地震となり、阪神・淡路大震災を上回る戦後最大の災害をもたらし、現在も住民や支援者によって復興が進められている。

今回のワークショップは、復興を成しとげ、心豊かな街づくりを目指し続けている街から日常的な暮らしを再度見つめなおした。そして「特別で無い豊かな暮らしとは何か」を再考しながら、高齢化や多様化する環境を踏まえ、製品、サーヴィス、空間、広告等のリアルなデザインを各チームから提案してもらった。主に新長田の商店街や神戸観光エリア、神戸港など住民から観光客まで多くの人が集まる地域を各チームでユーザーと一緒に検証を行った。

18:00~20:00 チーム作業

夕食を済ませた後、各チームはフィールド調査で明らかになった気づきと課題、解決策などについて検討を開始した。ボードにはコメントが記された付箋が数多く貼られ、各チームの議論は夜遅くまで続いた。

今回は全チームがひとつの空間で作業をする形態を とったが、他チームを邪魔するほど声や音が会場に響 くこともなく、また水を打ったように静寂でもない。 お互いのチームの息使いと状況を感じ取れる適度な距 離感が生まれていた。



2日目9月18日(水)

8:30~9:30 デザイン作業







このワークショップにとって最も重要な 2 日目の朝から本格的なデザインワークが始まった。メンバー各人の様々な気づきの中からデザインのテーマを絞り込み、具体的なデザインに収斂させる作業で、多層的な経験と知識が混ざり合い、融合して新たなデザインが検討されていった。

作業が順調なチーム、暗礁に乗り上げて方向性を決めきらないチーム。荒井名誉教授は5つのチームを回って議論に耳を傾け、それぞれの節目でアドヴァイスを与えていた。

各チームはギリギリまで会場で作業を行い、宿舎のホテルに戻っていった。宿舎での作業が続く中、荒井名誉教授とワークショップ委員会メンバーもサポート体制をとった。

3日目9月19日(木)

8:00~12:00 プレゼンテーション準備



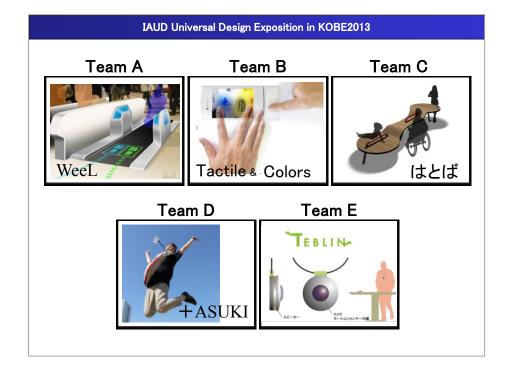
睡眠不足の中、午後からのプレゼンテーションに向けて、各チームは PPT 資料やモックの作成に集中して取り組んだ。ナレーションやパフォーマンスの練習をしているチームもあった。各チームとも締切り時間を守って、プレゼンデータを事務局に提出した。

13:30~15:30 チーム発表、ディスカッション

各チームの最終プレゼンテーションは神戸芸術工科大学の 吉武記念ホールで行われた。

あるチームはファッションショー仕立てで、メンバーが軽やかな音楽に乗ってモデルのようにステージを颯爽と歩き回るもので、会場からは大きな拍手が巻き起こっていた。各チームは大きくて広いステージに戸惑いながらも、48時間の思いをわずか8分間に凝縮し、プレゼンテーションは無事に終了した。提案されたデザインは、どれも素晴らしくリアリティ溢れ、甲乙つけ難いものであった。





Aチーム:「Weel」

車椅子を利用した人でも通過しやすい駅の自動改札機。全高を低く抑えているので見渡しも良く通過しやすく、ナビゲーション機能も付いている。荷物を多く持った外国からの観光客や子供など様々な人に有効。

B チーム:「Tactile&colors」

目の不自由な方にスマートフォンに装着された情報端末で色や柄を伝える伝達装置。過去に遭遇した色柄もストックし、人とのコミュニケーションに使える。視覚障害者以外の人でも、自分の持っている服等の色を記憶させればショッピング時のコーディネートに使える。

Cチーム:「はとば」

新長田商店街をモチーフに考えられた、様々な人が集うことでコミュニケーションが生まれる公共ベンチ。物理的バリアフリー設計に加え、人が集い易い心理的な要素をも考慮した。より多様な人々の交流の場を作ることが豊かな生活につながる。

D チーム:「+ASUKI」

下肢障害や杖を使う人にもおしゃれで使いやすい日常品を収納できるバックの提案。リュック等を使えない方が、腰周りに携帯電話や日常品を多くぶら下げていることに着目。 片手でも直ぐに取り出せ、身体に密着した新しいバックは旅行者など様々な人が使える。

E チーム:「Teblin」

視覚障害者が他の人との会話で音声以外の頷きやジェスチャーに参加できないことに着 目。人のジャスチャーを検知し音声として伝えられるポータブル伝達装置の提案。一般 の会社の会議等でも人の頷きや動きを音声に変えるので、場の活発化を支援できる。



盛大な中で会が終了した。

プレゼンテーションの後、来賓者や IAUD 理事からの質疑応答があった。特に、神戸市企画調整局デザイン都市推進室課長の衣笠収様からもデザインを実現する上での質問や提案をいただき、活発な意見交換が出来た。

最後に、今回のワークショップの後援者で運営にご協力いただいた神戸市「統括監」かつ神戸芸術工科大学学長の齊木崇人様(左写真)から、提案されたデザインへの感想と各チームへねぎらいの言葉が送られ、

4日目9月20日(金)

8:00~12:00 人と防災未来センター視察



希望参加者にて「人と防災未来センター」(神戸市中央区)を訪れた。このセンターは阪神・淡路大震災から得た貴重な教訓を世界共有の財産として後世に継承し、国内外の地震災害による被害軽減に貢献すること、および生命の尊さ共生の大切さを世界に発信することを目的に設立された施設である。

参加者メンバーは当時の人や町の状況や様々な記録を 見ながら、災害の恐ろしさと災害に備えた街のデザイン の重要性を直に考える機会を得た。(了)

CM 字幕本放送のさらなる普及へ向けて 余暇の UDPJ Facebook アカウント「CM 字幕応援団」活用開始

「テレビ CM にも字幕を」をテーマに活動している余暇の UD プロジェクトは、10 月 1 日(火)より CM 字幕放送の普及を促進するために Facebook アカウント「CM 字幕応援団」を開始しました。

https://www.facebook.com/cmjimaku

同 UDPJ は、テレビコマーシャルでの字幕放送の実現に向けて 2006 年より研究活動を開始し、2010 年には CM 字幕放送のテスト放送が開始され、本放送開始へ向けてあと一歩のところまで来ています。



しかし、まだまだ本放送へ向け様々な方面へ CM 字幕の認知と理解、必要性を訴えていかなければと感じている中、CM 字幕の現状と今後の動向を広く認識してもらうために、5月20日には余暇の UDPJ 企画 第3回定例セミナーCM 字幕勉強会「CM 字幕に関する最新動向」を開催しました。会員企業の宣伝担当をはじめ、関係各所から約100名が参加し、CM 字幕への関心の高さが見えました。

そこで同 UDPJ では、CM 字幕の実現をより推進するため、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を活用し、CM 字幕に関する情報の収集や共有、最新情報などを発信するなど、CM 字幕応援プロジェクトの立ち上げを企画しました。

SNS は現在、全世界で 10 億人以上のユーザーがおり、また、発言の透明性が高く情報の伝達が迅速な Facebook を活用することで、活発な意見や情報交換が見込めます。 アカウント名は「CM 字幕応援団」。活動内容が簡潔で一般の方々にもわかりやすく、アクセスしやすい名称にしました。

現在、こうした CM 字幕放送に関する意見や感想を一貫して集める場所はなく、企業独自の専用フォームかお客様相談窓口しかありません。全体的な反響の大きさが分かれば、企業も興味を持ち、それぞれの社内での CM 字幕の提案も活性させることができるのではないでしょうか。

なお、ここで得られた情報は、同 UDPJ 内で分析・整理し、発信していくことを予定しています。(余暇の UDPJ 主査 山田淳司)

DDL ウィークに IAUD 活動紹介パネル展示

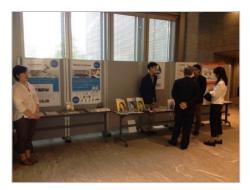


IAUD の活動紹介パネル

新しいビジネスとしてのダイバーシティ&インクルージョンを考える「電通ダイバーシティ・ラボウィーク」が9月30日(月)~10月4日(金)に㈱電通の電通ホール(東京・汐留)で開催され、展示イヴェントにはIAUDも参加し、主な取りが

り組みを紹介したパネルを展示しました。

また、講演者パネルディスカッションが行われたフォーラムには行政関係者や関連企業団体、個人など約300人が来場しました。



IAUD のパネル展示会場

IAUD 設立 10 周年記念イヴェント開催のお知らせ UD 検定と IAUD アウォード 2013 表彰式も同時開催

IAUD は本年 11 月 28 日に設立から 10 年を迎えるにあたり、11 月 21 日(木) 13 時半より 富士ゼロックス R&D スクエア (横浜・みなとみらい)において、「IAUD 設立 10 周年記念イヴェ ント」を開催いたします。

当日は IAUD 新総裁の瑶子女王殿下にご臨席いただきおことばを頂戴するほか、国土交通 省都市局長の石井喜三郎氏と岩手大学地域連携促進センター客員教授の渡邉政嘉氏による 基調講演や、「これまでの 10 年、これからの 10 年~クールジャパンと海外戦略における UD~」 をテーマにしたパネルディスカッションを予定しております。

また、「第4回UD検定・初級講習会&検定試験」や「IAUDアウォード2013表彰式&プレ ゼンテーション」も同時開催いたします。

※参加ご希望の方および詳細は以下をご覧ください↓ http://www.iaud.net/event/archives/1309/16-000000.php



■ 第4回 UD 検定 初級 講習会&検定試験開催 オリンピック、パラリンピックのヴォランティアにも役立つ知識

UD の更なる普及と実現をめざす一環として、IAUD が昨秋よりスタートさせた「UD検定」の4回目となる「第 4 回 UD 検定・初級 講習会&検定試験 を、11 月 21 日(木)9 時から、富士ゼロックス R&D スクエア(横浜・ みなとみらい)で実施します。

東京開催が決定したオリンピック・パラリンピックのヴ オランティアの対応の際にも役立つ UD の基本知識を 学習する講習会(2時間)とUD検定初級試験(1時間・ 50 問)のセット形式です。



第2回 UD 検定(浜松町)

その場で学習でき、事前の準備が不要ですので、UD に興味のある一般生活者も気軽に参加できます。また、合格者には「UD 検定・初級認定証」が 発行されます。

※受験ご希望の方及び検定の詳細はこちらをご覧ください↓ http://www.iaud.net/event/archives/1309/27-000000.php

IAUD 11 月の予定



月	火	水	术	金	土	Ħ
				1 10:00~ 検定委員会 @IAUD サロン 14:00 労働環境 PJ @みなとみらい Innovation & Future Center	2	3
4	5	6	7 14:30~ メディアの UDPJ @IAUD サロン	8 13:30~ 手話用語 SWG @IAUD サロン	9	10
11 15:00~ 研究部会 @IAUD サロン	12	13	14	15 13:30~ 余暇の UDPJ 消防局緊急通 報メール説明会 @IAUD サロン	16	17
18	19	20	21 9:00~ UD 検定初級 13:30~ IAUD 設立 10 周 年記念イヴェント @富士ゼロックス R&D スクエア	22	23	24
25	26	27 14:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	28	29	30	

Newsletterでは、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。 ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報、国内外の UD 関連イヴェント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。

次号は11月中旬発行予定

特集:手話用語 SWG「医療関連の手話のつくり方」講演会開催報告(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: salon@iaud.net